

高校改革プランに関する請願書

平成18年2月27日

長野県議会 議長
萩原 清 様

紹介議員

佐久市原86-1

長野県野沢南高等学校生徒会
会長 佐々木 史也

私たち野沢南高校生徒会は、昨年6月24日に発表された「県立高校再編整備案」を受け、様々な場で「高校改革プラン」について学習を深め、「白紙撤回」を求めて交流会や意見交換などをしてきました。しかし、私たちの思いもむなしく、2月8日に第二通学区推進委員会によって報告書が提出され、その中に、本校の多部制・単位制への転換が盛り込まれました。私たちはこれまでの経過並びに報告の内容について納得出来ませんので、長野県議会には、下記の項目について、県教育委員会へ働きかけていただきますよう、請願します。

1、「再編整備案」を白紙撤回し、野沢南高校を現状のまま存続させるよう働きかけてほしい。

野沢南高校は学習とクラブ活動の両立を目指し、豊かな人間性を培うことのできる高校として、地域の期待を集めている学校です。在校生の69%が佐久市内、24%が南佐久地区からの通学者で、佐久地区にとってはなくてはならない高校です。ここ数年、学習面では学校の方針も「大学をめざす」ことに転換し、本年度の大学進学合格者は希望者の80%に達しています。(2/14現在) また、卒業後は佐久地域に戻って働き、地域に貢献する卒業生が多いことも特徴です。

学校生活では、クラブ活動が盛んで、クラブ加入率は79.6%、特色あるクラブとして県下唯一の日本舞踊部と、東信地域唯一の新体操部があり、各種大会や全国高校総合文化祭で活躍しています。学校の中では、生徒は皆仲が良く、先生方も親身になって下さり、私たちは明るく楽しい学校生活を過ごしています。また、7月の文化祭で行われる合唱コンクールは、大変質の高い合唱であると評判が高く、地域の方や保護者の方が200人以上来校して鑑賞して下さいます。

定時制の生徒は67名で定員に対する充足率は40%です。多くの生徒が入学前に不登校を経験していますが、少人数のなかで改善され、定通体育大会や生活体験発表会で活躍しています。

野沢南高校は、毎年入学希望者が定員を上回っており、佐久地域の中でなくてはならない存在です。本校入学を希望する中学生が全日制・定時制の生徒として入学し、学習活動やクラブ活動、生徒会活動、文化祭を活発に行うことができるよう、野沢南高校を現状のまま存続させるよう、県教育委員会に働きかけて下さい。

2、県教育委員会が地域住民の声に耳を傾けるよう働きかけてほしい。

「高校改革プラン」は一学校の問題ではなく、長野県民全体の問題です。しかし、「たたき台」発表から7ヶ月も経つのに、県下の高校生全体の間には、「高校改革プラン」の内容が知られておらず、議論さえ起きていない現状があります。地域全体を見渡しても、名前の挙がった該当校の関係者の間で議論されているだけで、地域住民全体の議論に発展していません。このように地域住民の間で、何の議論もなされないまま事態が進行していくことは、学校にとっても地域にとってもよくないことだと考えます。もっと県教育委員会が地域住民の声に耳を傾けるよう、働

きかけてください。

3. 「再編整備案」の審議には、もっと時間をかけるよう働きかけてほしい。

本校が多部制・単位制に転換することを前提として考えた場合、現時点においても様々な問題が予想されます。例えば、本校の募集定員である240名の中学生の受け入れ先はどこなのか。クラブ活動や文化祭はできるのか。県教育委員会は出来ると言っていますが、具体的にどのようにするのか。残された全日制の生徒の学校生活はどのように保証され、ケアされるのか、等々の諸問題がありますが、これらについてどうするのかという具体的な方針が全く示されていません。このような状態では、私たちは不安に思うばかりです。学校を運営していく先生方達も困ってしまうのではないかと思います。「再編整備案」によって考えられる細かい問題点までしっかり議論し、私たちや地域の方達に説明して理解を得るまで、再編の実施時期を遅らせるよう、県教育委員会に働きかけて下さい。

4. 中学生とその保護者に、現地へ出向いて説明するよう働きかけてほしい。

「再編整備案」が平成19年度から実施されるならば、その時の入学生は現在の中学2年生に当たります。また現在の中学3年生も、該当校に入学し、2年生に進級した時点でその課程の後輩がいなくなることが想定されます。その生徒達は、「高校改革プラン」をどう思っているのでしょうか。中学の先生からは、進路指導が難しくなったと聞きました。今、中学生は私たち以上に不安と疑心にとらわれているのではないのでしょうか。

実際、今年行われた本校の前期選抜の志願者は、昨年よりも50名以上減ったと聞きました。私たちは、この数字を「中学生・保護者の不安と動揺」の表れであると受け止めています。

県教育委員会は、県下の各中学校に出向いて、中学生とその保護者に責任をもって「高校改革プラン」について説明し、その不安を取り除き充実した中学校生活を送れるよう配慮するよう、働きかけて下さい。

5. 推進委員会の議論の進め方に疑問があるので、追及してほしい。

第二通学区推進委員会は1月29日に最後の会議を持ち、報告書の内容を決定しましたが、これまでの委員会の会議の進め方に対して、私たちは疑問に思う点があります。

まず、会議のあり方について疑問があります。推進委員会は、最初は通学区の全高校を対象として再編の議論を進めていくはずであったと、私たちは認識していますが、実際の会議では名前の挙がった野沢南高校と望月高校をどうするかという議論に終始し、他の高校はほとんど議論の対象になりませんでした。この議論の進め方はおかしいと思います。

次に、私たちの意見や要望が全く委員会に反映されなかったことです。私たちは12月9日に県教育委員会に対して、4項目の要望書を提出し、その中に「地域の声を聞き、審議に充分時間をかけてほしい」という項目を設けました。しかし、野沢南高校を残して欲しいという私たちの思いは委員会の中で、一顧だにされませんでした。とても残念でなりません。

三つ目は、1月9日の推進委員会で、野沢南高校の多部制・単位制への転換が、委員の中に欠席者がいるにもかかわらず、多数決で決定されたことです。このような大きな問題は、委員会全体の合意を見て決定されるべきものだと思います。スケジュールや時間のないことを理由に多数決という方法で決定されたことは大変おかしいことだと思います。同窓会の方々もこのやり方に疑問を投げかけています。

以上3点について、推進委員会の議論の進め方と、その責任を議会の方から追及して下さい。